

四王堂・薬師金堂の発掘調査

都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第三研究室長 林 正憲

1. 西大寺の創建と沿革
2. 四王堂の発掘調査（1986・2002 年）
3. 薬師金堂の発掘調査（2006・2007 年）
4. 食堂院の発掘調査（2006 年）

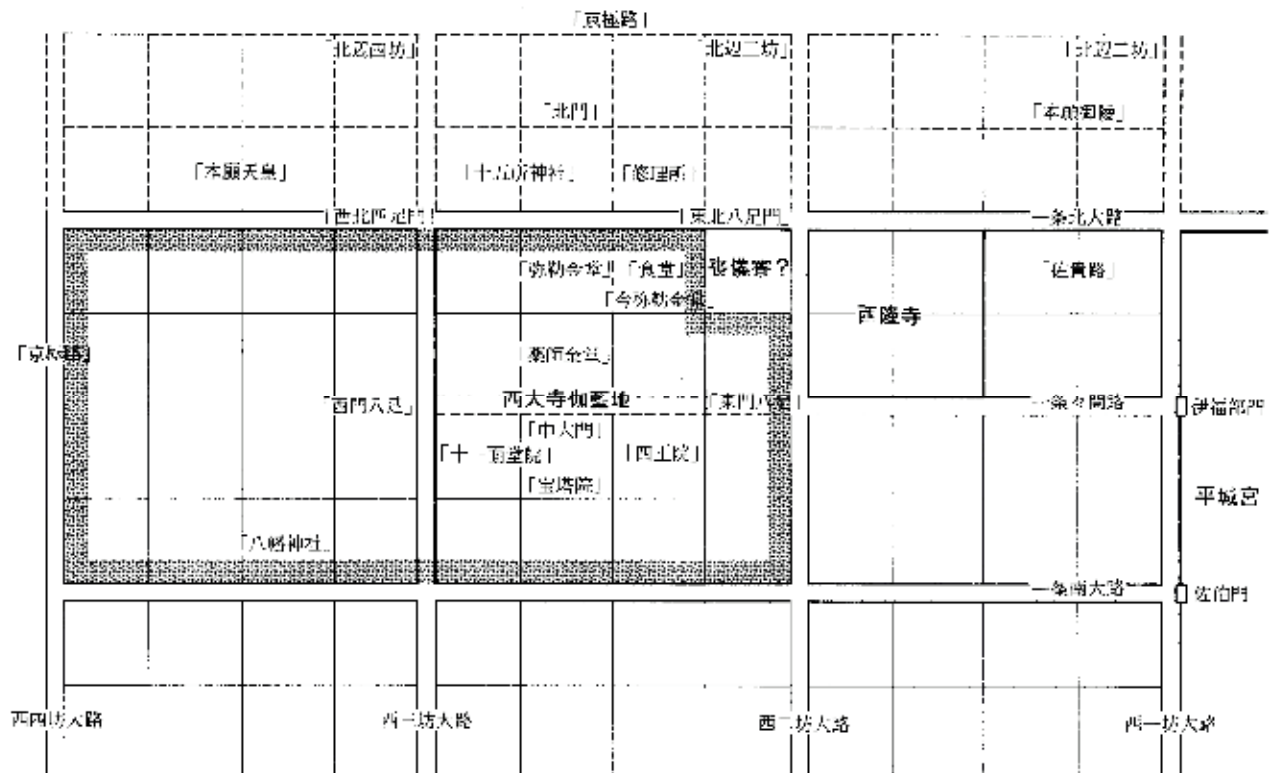


図1 西大寺と周辺条坊の状況

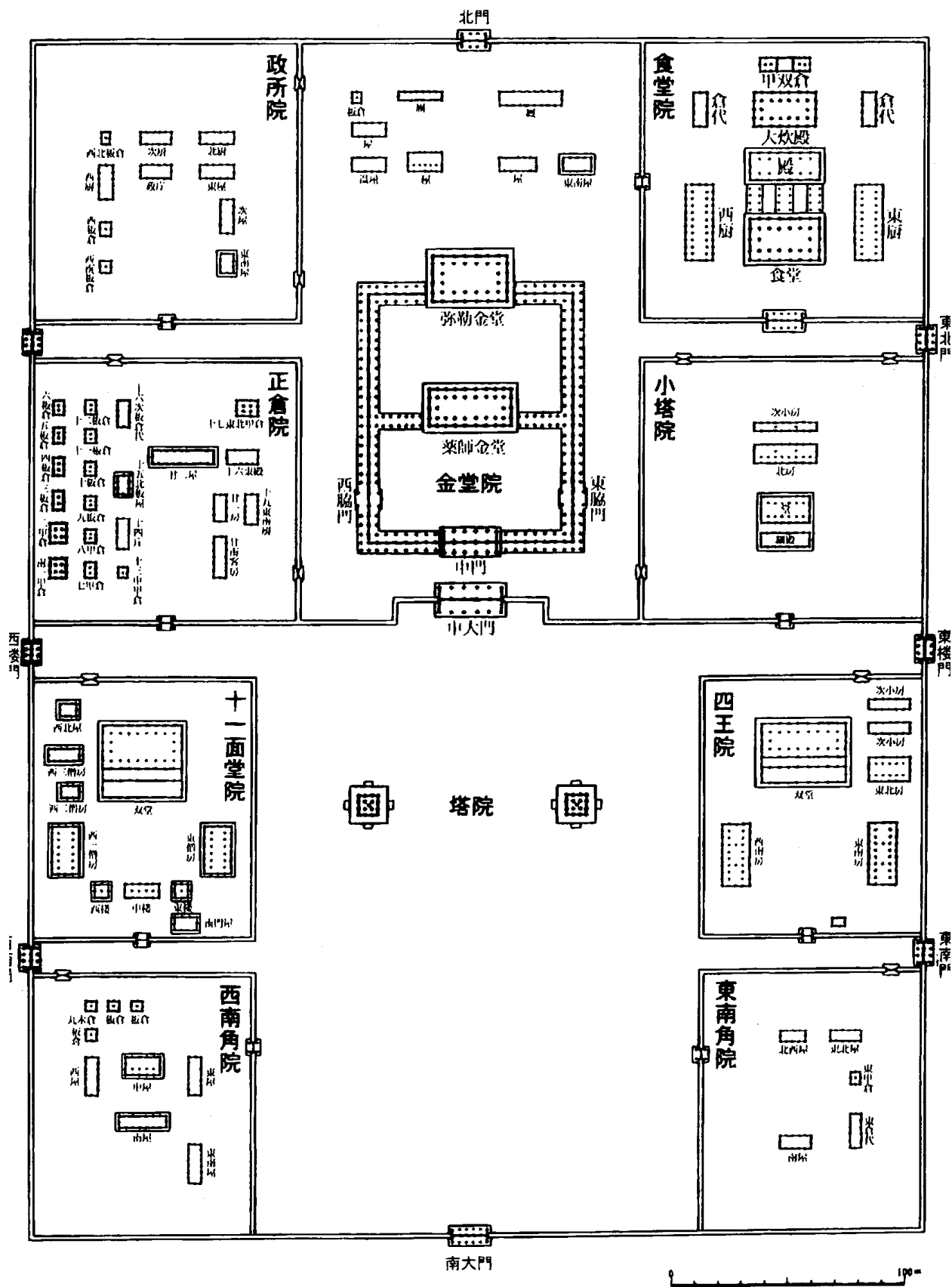


図2 西大寺伽藍・復元図

(宮本長治郎 1983「奈良時代における大安寺・西大寺の造営」『日本古寺美術全集』第6巻を一部改変)

西大寺・略年表

764（天平宝字8）	孝謙太上天皇、藤原仲麻呂の討伐を祈願して、金銅四天王像の造立を發願。
765（天平神護1）	金銅四天王像の鑄造と西大寺の造営を開始。
766（天平神護2）	称徳天皇、西大寺に行幸 * この頃までに四王堂完成か
767（神護景雲1）	佐伯今毛人を造西大寺司長官に、大伴伯耆男を同次官に任ず。
769（神護景雲3）	4月、称徳天皇、西大寺に行幸 * この頃までに薬師金堂完成か 6月、弥勒浄土を作る。 * 弥勒金堂の完成か
770（宝亀1）	真塔の心礎を破却。 * 東塔の設計変更（八角七重から四角五重へ）
772（宝亀3）	西塔に落雷。 * この頃までに両塔完成
780（宝亀11）	『西大寺資財疏記帳』の作成。 * この頃までに伽藍全体が完成
846（承和13）	薬師金堂か弥勒金堂のいずれかが焼失。 ← 薬師金堂か？
928（延長6）	塔、落雷により焼失。 ← 西塔か
962（応和2）	大風雨により食堂倒壊。
1106（嘉承元）	（弥勒）金堂が大破したため、食堂に仏像を安置。
1118（元永1）	この頃までに創建期の建物は火災で焼失。
1138（保延4）	別当清円によって四王堂が再建される。
1140（保延6）	この頃、食堂（＝弥勒金堂）と四王堂、塔1基のみ残る。
1206（建永1）	真大門の造営。
1235（文暦2）	醍醐が西大寺に入る。以後、西大寺の復興に努める。 * この間、八角五重石塔・真言堂（現本堂の前身）・僧堂・宝生護国院・護摩堂・西室が造営される
1290（正応3）	醍醐、没する。
1307（徳知2）	食堂（＝弥勒金堂）が燈燵の火による火災で焼失。
1502（文龜2）	兵火により四王堂中門、右塔院、地藏院、東大門を残し、他の諸堂ごとく壊滅。 司馬、光明真言堂の立柱（＝復興の開始）。
1674（延宝2）	四王堂再建。

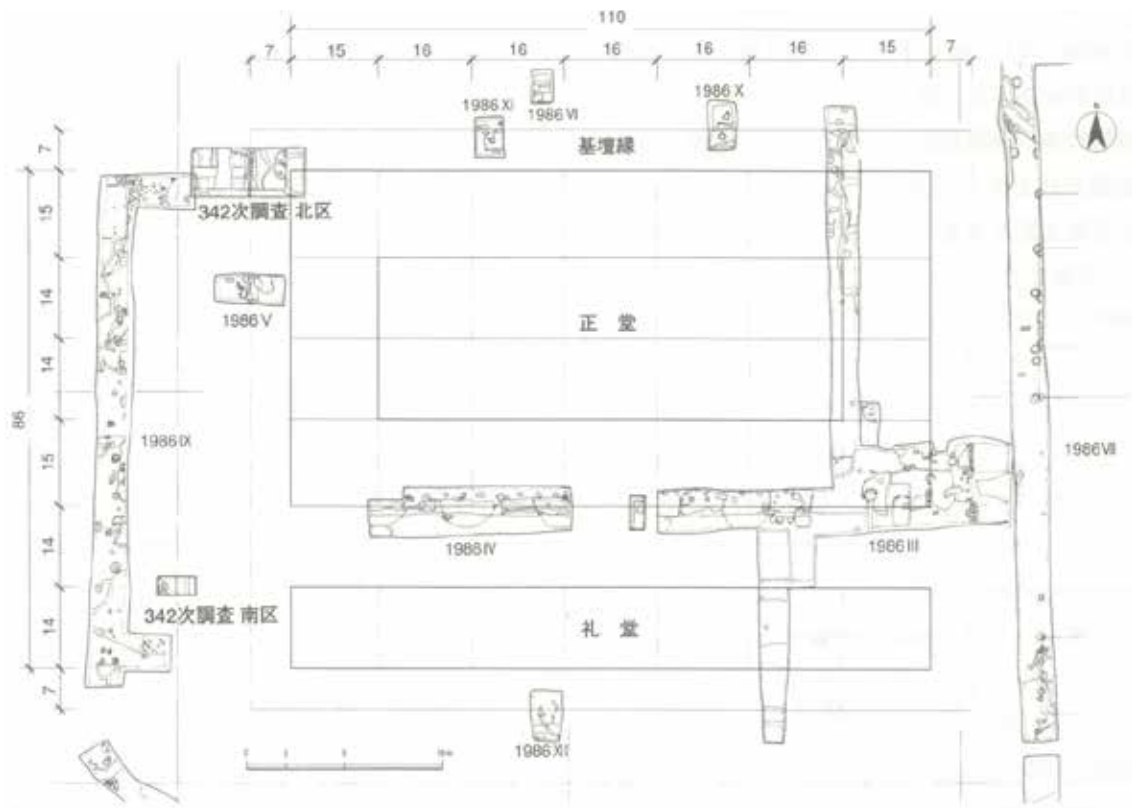


図3 四王堂の復元図

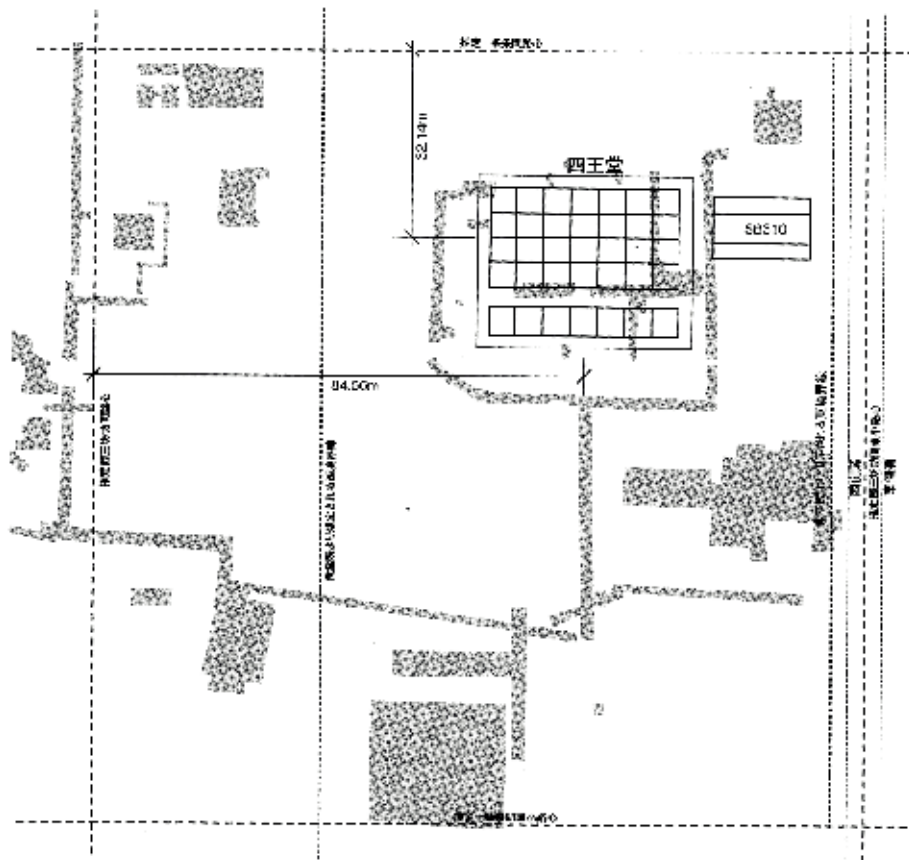


図4 四王堂配置復元図

(大林潤 2012「西大寺伽藍の造営過程に関する検討」『文化財論叢Ⅳ』より)

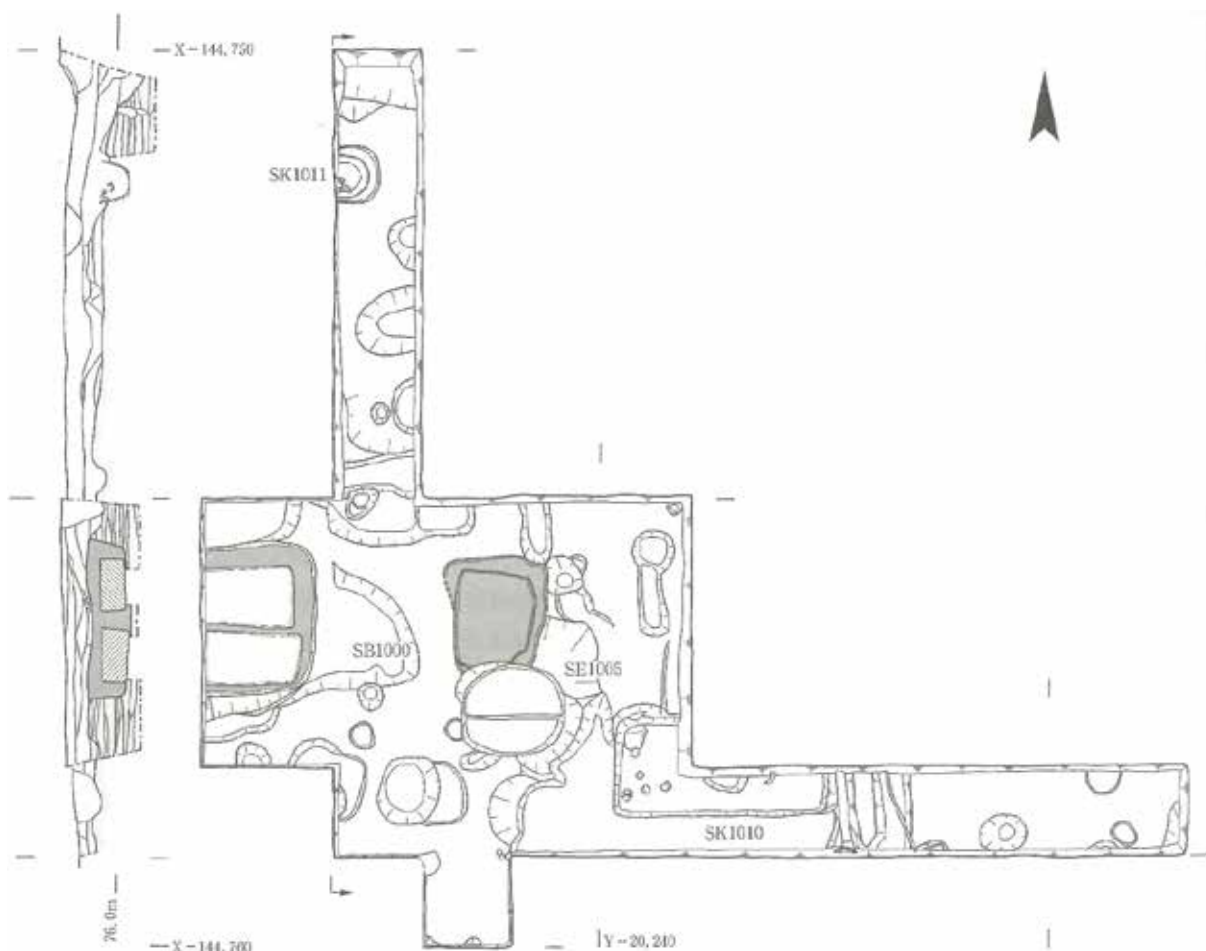


図5 第409次調査区平面図・断面図

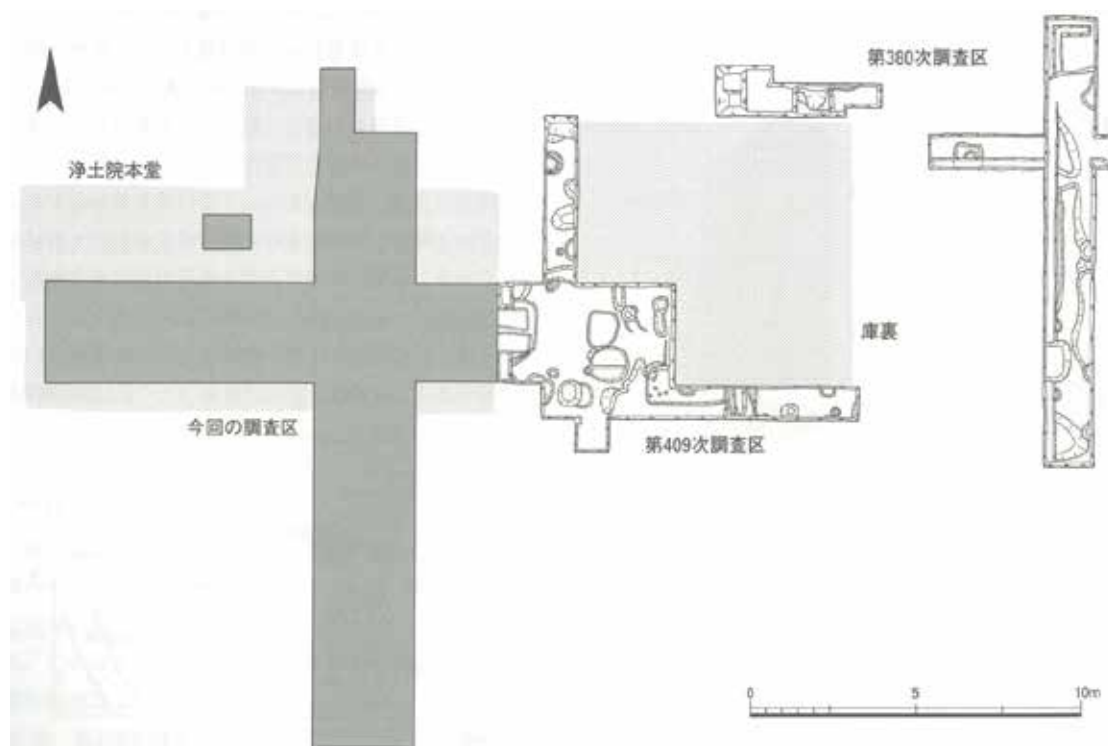


図6 第422次調査区位置図

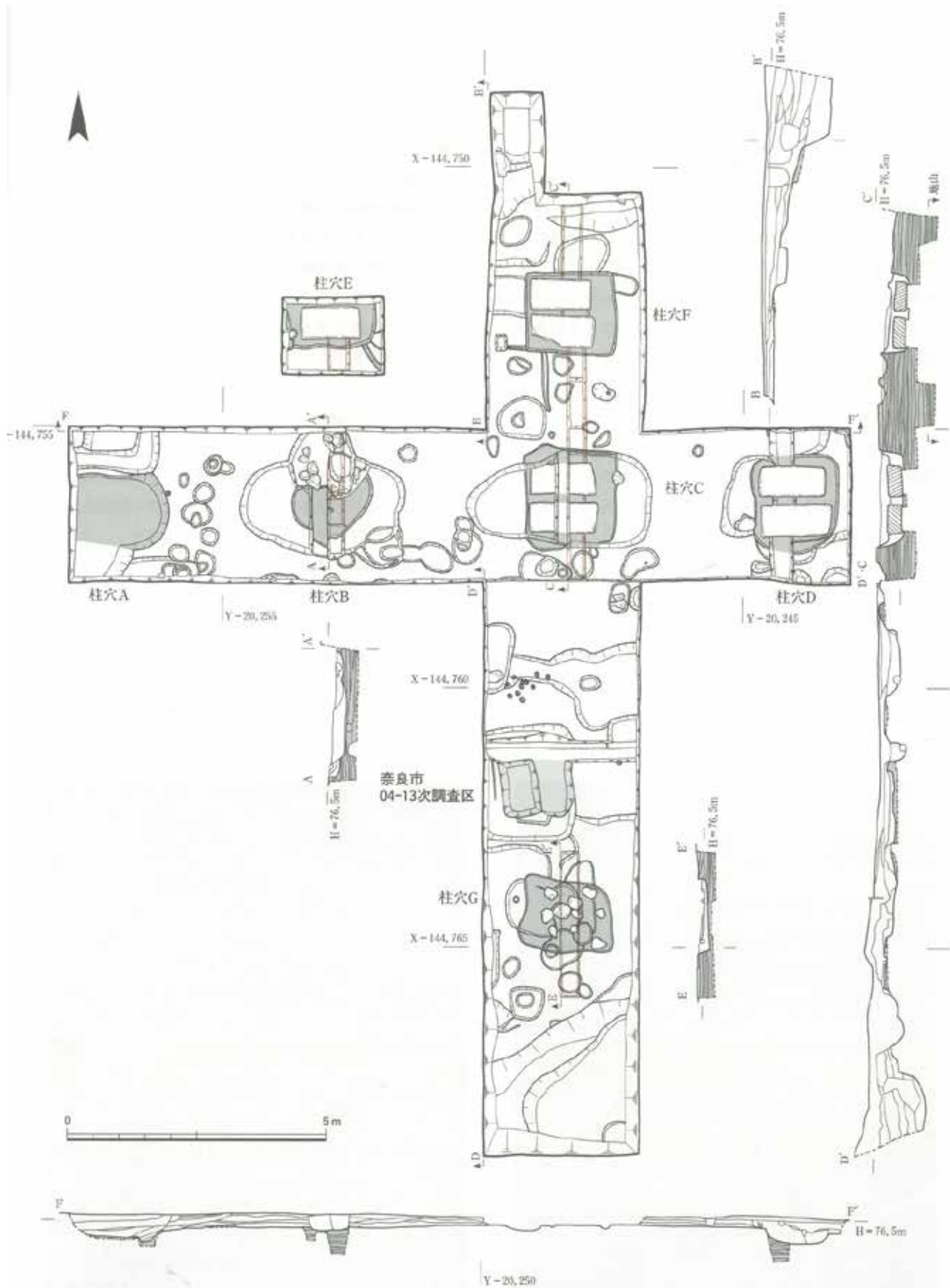


図7 第422次調査区平面図・断面図

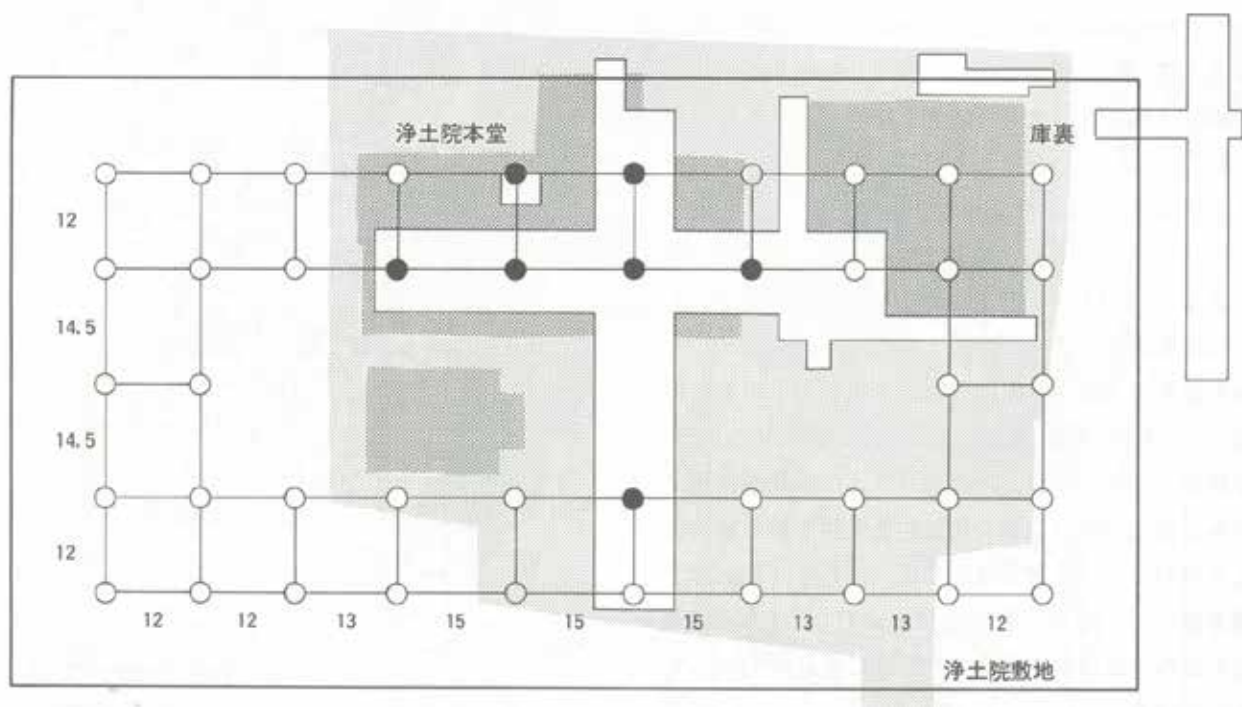


図8 薬師金堂復元図



図9 第404・410・415次調査区位置図

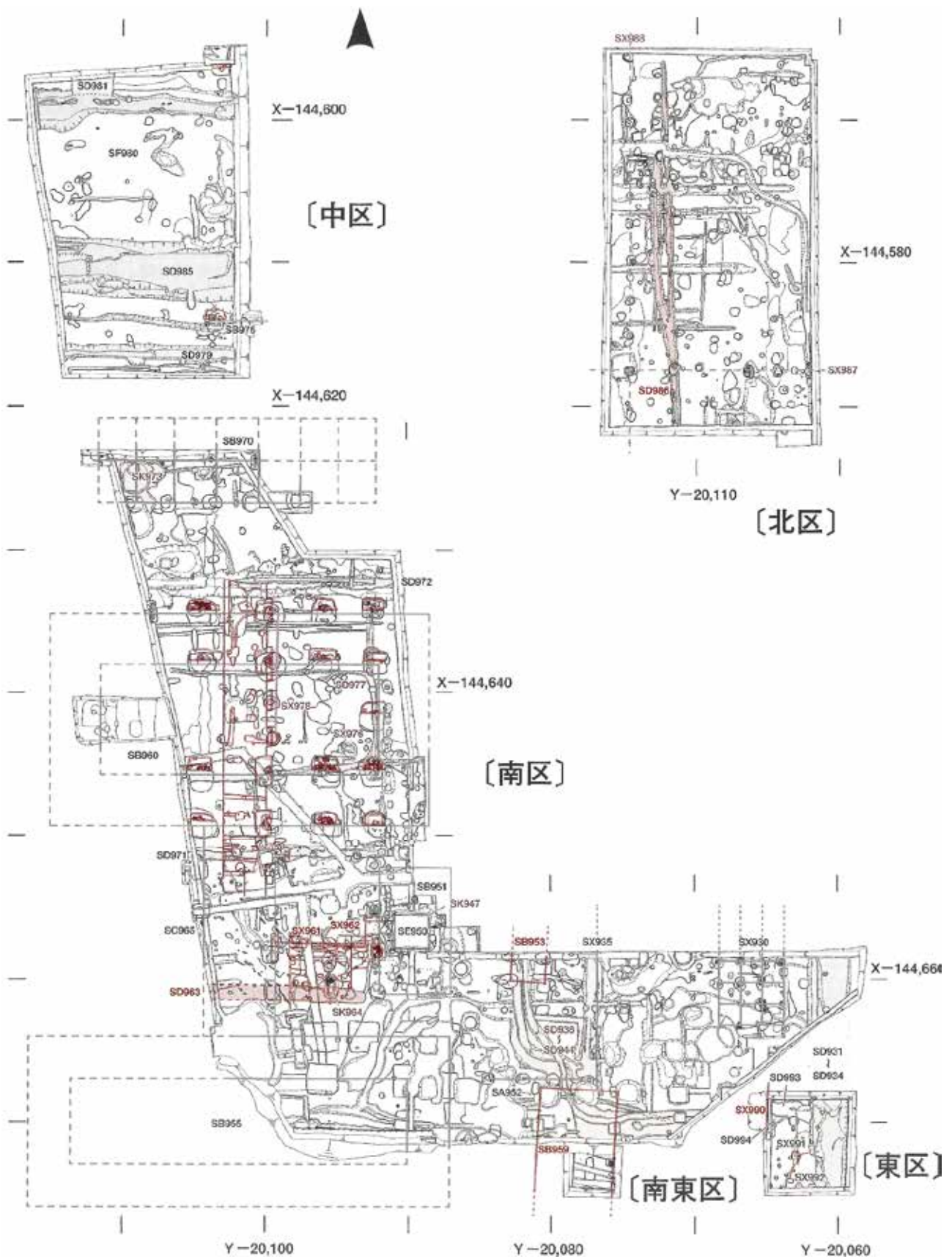


図 10 第 404・410・415 次調査区平面図